

# 原発回帰に未来はあるのか

リモート開催  
〈Zoom〉  
会場参加も可能

チェルノブイリとフクシマの原発事故は、原発が、人類に取り返しのつかない災禍を及ぼすことを露わにしました。今も被災者は、大地や自然と共にうめいています。しかし日本を含む世界各地で今や、ウクライナでの戦争や、CO2削減を口実に、再び原発を稼働させ、新しい原発まで建設しようとする動きがみられます。我々は今一度原発の回復不能な危害性に思いを致すと共に、原発に頼らずエネルギー危機を克服する道を探りたいと思います。

2023年 1月8日(日)14:00～9日(月・祝)14:30

スケジュール変更、詳細裏面

## 発題1.「原子力という災厄の根っこを考える」



**細川 弘明** (高木仁三郎市民科学基金 理事、京都精華大学 名誉教授)

フォーラム企画者よりご提案いただいた演題は「終わりなき原子力災害」でした。これは、2021年、東電福島原発事故10年目の節目にあわせて私と仲間が制作した映画『終わりのない原子力災害』(アジア太平洋資料センター [www.parc-jp.org/video/sakuhin/311.html](http://www.parc-jp.org/video/sakuhin/311.html))を踏まえて下さったものと思います。原発事故の被害は、防止対策の不備、緊急時対応の不手際、被災者対応の不適切さという三重の失策・無責任によって増幅されて続いています。被害の複合性と見えにくさについて、また、大事故が起きなくても原子力利用が必然的にもたらす一連の問題(労働被ばく、核のごみ、地方経済の衰退、気候危機対策の遅れ、汚職、核拡散など)の全貌を視野において、災厄の本質を見極めたいと思います。

## 発題2.「エネルギー危機に対するドイツおよびヨーロッパの選択:その背景と帰結」

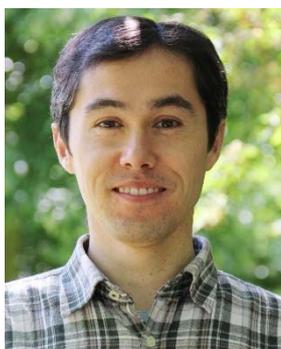


**フランク・レーヴェカンプ**

(ドイツルートヴィヒスハーフェン経済大学教授、上智大学客員教授)

ドイツは2022年末に予定されていた最後の3つの原発の停止を延期することをよぎなくされました。これを単にウクライナ戦争の影響とみなすことはできません。ドイツの脱原発は、隣国やヨーロッパ連合(EU)と協議することなく、単独で決定され、あまりにも野心的な目標をたてていたのです。ここから得られる教訓は、気候変動対策や脱原発のような重大な事項は国際的な協力や妥協が必要だということです。ドイツや日本はこれらの課題への対処に大きな役割を果たすことができますが、国境をこえた視野が必要になります。

## 発題3.「キリスト教界は、エネルギー問題とどう向き合うか:日本とドイツを中心に」



**木村 護郎** クリストフ (上智大学外国語学部教授)

このエネルギーを考えるセミナーは今回で10回目となります。なぜ「クリスチャンアカデミー」がこの問題を継続的にとりあげるのでしょうか。キリスト教界が環境やエネルギーの問題に関わる意義や可能性、課題について改めて考えてみたいと思います。

《会場》 関西セミナーハウス〈地図裏面〉

《参加費》 一般 3,000円(リモート、会場とも)

《申込》 1月3日までに、裏面の参加申込書の項目を  
WEBサイトフォーム、電子メール、電話、Faxでお送りください。

## 細川 弘明 ほそかわ こうめい

(高木仁三郎市民科学基金 理事、京都精華大学 名誉教授)

1955年、東京生まれ。京大文学部卒業後、青年海外協力隊の派遣で南米ボリビアの国立人類学研究所にて2年間、調査活動に従事。その後、京大人文学部研究所、オーストラリア国立大学太平洋地域研究所、東京外国語大学、佐賀大学農学部、国立民族学博物館客員部門などをへて、2001年から2022年まで京都精華大学で教えた。文化人類学、環境社会学。豪州先住民族の環境知識や土地権運動を研究。ウラン鉱山開発、環境エネルギー問題をめぐる調査にも従事。高木基金の特別事業であるシンクタンク「原子力市民委員会」の事務局長として『原発ゼロ社会への道』シリーズ(2014年版、2017年版、2022年版)の編集を担当した。

## フランク・レーヴェカンプ Frank Rövekamp

(ルートヴィヒスハーフェン経済大学教授、同東アジア研究センター所長)

1963年生まれ。1990年ケルン大学卒業後、自動車関連企業勤務。98年ケルン大学経済学博士を取得後、化学メーカー勤務を経て2009年から現職。2022~2023年上智大学客員教授として日本滞在中。専門は財政学、エネルギー政策、比較政治学。福島第一原発事故後の日本やドイツ、ヨーロッパの対応を研究。ドイツ語、英語での関連著作の他、菅直人『東電福島原発事故 総理大臣として考えたこと』(幻冬舎新書)のドイツ語訳者でもある。

## 木村 護郎クリストフ きむら ごろうくりすとふ

(上智大学外国語学部ドイツ語学科教授、同大学院国際関係論専攻教員)

1974年名古屋市生まれ。一橋大学大学院博士課程修了。博士(学術)。社会を形成・運営する基盤としての言語とエネルギーについて、主にドイツと日本に関して研究・教育・実践活動を行う。キリスト教界の環境問題との向き合い方が近年の重点テーマの一つ。関連の近著に、『脱原発の必然性とエネルギー転換の可能性—地震国日本の現実とドイツの先例から考える』(共著)新教出版社、2022年。

## ◎スケジュール◎

(変更になっています)

### 【1日目】

14:00~14:10 開会のことば  
14:10~15:40 発題1  
細川 弘明さん  
15:40~15:50 休憩  
15:50~17:00 質疑応答と  
はなしあい

### 【2日目】

10:00~11:00 発題2  
フランク・レーヴェカンプさん  
11:00~11:10 休憩  
11:10~11:20 若い世代からの提言  
11:20~12:00 質疑応答とはなしあい  
12:00~13:00 休憩(昼食)  
13:00~13:20 発題3  
木村 護郎クリストフさん  
13:20~13:30 若い世代からの提言  
13:30~14:30 質疑応答~  
はなしあいとまとめ  
14:30 閉会

\* できるだけ全日程ご参加ください。やむを得ない場合は、部分参加でも結構です。部分参加の会費は事務局にお尋ねください。

\* お申込みには、電子メールなどで受付のお知らせをお送りします。申込み後2~3日経っても返信が無い場合は、お電話などでお問合せください。(新年は1月4日以降に返信します。)

## 公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー

### 関西セミナーハウス活動センター

〒606-8134 京都市左京区一乗寺竹ノ内町 23

<http://www.academy-kansai.org>

電話 075-711-2117

FAX 075-701-5256

電子メール [office@academy-kansai.org](mailto:office@academy-kansai.org)

運営委員長: 小久保 正 所長代行: 榎本 栄次  
担当: 都木 (とき)



\* 地下鉄烏丸線松ヶ崎駅、叡山電鉄修学院駅までワゴン車で送迎いたします。定員がありますので、ご希望の方は予めお知らせ下さい。地下鉄の最寄駅は松ヶ崎駅ですが、北山駅のほうがタクシーを拾いやすいです。

**寄付のお願い** このフォーラムでは3人の講師を依頼し、学生の参加費を特別に安く抑えています。趣旨にご賛同いただき、寄付のご協力を賜れば幸いです。(ご一報いただければ払込票をお送りします)  
郵便振替 01020-1-5184 加入者名 関西セミナーハウス活動センター

## 2022年度 修学院フォーラム「エネルギーを考える」第10回 参加申込書

|                                |                       |
|--------------------------------|-----------------------|
| (フリガナ)<br>名前                   | 所属                    |
| 〒<br>住所                        | 電話・携帯 ( ) - FAX ( ) - |
| 電子メール: @                       |                       |
| ◎参加形態 1. Zoomによるリモート参加 2. 会場参加 |                       |
| その他ご希望:                        |                       |

FAX 075-701-5256